

弘前大学

学園だより

題字：佐藤 敬 学長



写真：「ガラス器」 制作：教育学部生涯教育課程 舘田優

I 巻頭言	
弘前大学長 佐藤 敬	2
II 特集 新学期を迎えて	
各学部長挨拶	
人文学部長	4
教育学部長	5
医学部長	6
医学部保健学科長	7
理工学部長	8
農学生命科学部長	9
新入生・在学生の声	
人文学部・人文社会科学研究科	10
教育学部	12
医学部医学科	14
医学部保健学科	16
理工学部・理工学研究科	18
農学生命科学部	20
III 研究室紹介	22
IV 海外だより	25
V 新任教員自己紹介	26
VI けいじばんコーナー	30
VII 編集後記	30

特集

新学期を迎えて



新入生の皆さんへ — 勉学のすすめ —

弘前大学長
佐藤 敬

この『学園だより』174号が公表される頃には、新入生の皆さんも新しい生活に慣れて、それぞれに学生生活の中で新たな楽しみを見つけていることと思います。一方では、入学時の感激や新たな決意が、そろそろ多少は薄れ始めているかもしれません。しかし、時々また思い出して勉学の励みにして欲しいと願っています。

入学式の式辞の中で、私は皆さんに自ら学ぶことをお願いしましたが、学びの機会は皆さんの周りにたくさんあることを意識することが大切です。もちろん、普段の授業に沿って、自分で広く深く、そして高く知識を広げるとともに、さらにその先を考えることは普通にできると思います。一般的には、“予習、復習”と表現されるのかもしれませんが、必ずしも授業の範囲に限定する必要はなく、皆さんは、自ら知識や思考の範囲を無限に広げていくことができるのです。あるいは、必ずしも授業とは直接関係がなくても、自分が興味深いと思う事柄について、さまざまな材料を用いて勉強することもできます。教員の研究室を訪ねて質問することもでき、図書館やインターネットで調べることもできるでしょう。但し、インターネットの情報は必ずしも正確とは限りませんので、複数のサイトで確認することが絶対必要です。このような作業は、あらゆる科目について十分可能とは思えませんが、一つの課題でも、あるいは一冊の教科書でも、自分のものにできたら素晴らしいことだと思います。そして、そのような作業は、

その後あらゆる場面で、あらゆる課題に対して応用が可能です。とにかく、自ら課題を見つけて自ら学んでいく姿勢が皆さんに強く求められていることを忘れないで下さい。

今、社会では日本の若者の多くが内向き傾向にあって、海外への留学などに意欲の無いことが問題にされています。私は、今の日本の若者がおしなべて内向き傾向にあるとは思ってはいないものの、皆さんが多様な経験と広い視野を持って、我が国の今後を担って欲しいという社会からの期待には極めて大きいものがあるのも事実です。また、個人的には、日本の大学生のうち、外国留学を望んでいる学生の比率が、他国の若者に比べて必ずしも高くはないという事実には、単に“内向き”という言葉で表現できないさまざまな要因が関係していると思ってはいます。しかし、それはまた別の問題として、海外で学び、あるいは仕事に就くなどといったことは、例え短期間であったとしても、皆さんにとって大きな財産になることは間違いありません。是非、皆さん自身が、いつの日かそのような経験を実現するよう意識して、今から努力して欲しいと思います。また、弘前大学に在学する間にも、そのような機会が間違いなくありますので、大いにチャレンジして下さい。

皆さんが世界を視野に入れて活躍するためには、やはりコミュニケーションの力が重要で、そのためには、なんと言っても、まずは英語力を身に付けることが必要です。弘前大学としては、新たにイングリッシュ・ラウン

ジを設置して、英語のネイティブ・スピーカー4人を含めた計6人の新任教員に、生きた英会話やTOEIC受験の支援などを担当していただくことにしました。新入生に限らず、多くの学生がこのイングリッシュ・ラウンジを有効に利用して、教員が悲鳴をあげる程になれば幸いと思っています。私の杞憂であれば嬉しいのですが、もしかしたら、自分の英語力に自信が無いがために、イングリッシュ・ラウンジの利用を躊躇する人も居るかもしれません。しかし、コミュニケーションのために必要なのは、語学力もさることながら、もっと広い、人間力とでも表現すべき総合的な能力です。いくら英語が上手であっても、コミュニケーションがうまく行くとはいえませんし、むしろ、英語が上手であるが故に失敗することさえあるのです。従って、英語力を育むということは、それ自体が目的ではありません。例えたとどしい英語であっても、コミュニケーションを図ることはでき、そのためのトレーニングが必要なのです。そして、その中で英会話の力も向上していくべきものです。加えて、外国語を学ぶということは、コミュニケーションに限らず、多くの経験を広げることにつながり、日本語だけでは接することのできない世界にも踏み込むことが可能になります。まさしく、“英語を学び”、それによって身に付いた“英語で学び”、そして“英語で学ぶ”ことを通して、さらに“英語を学ぶ”ことができ、学びの好循環ができるのです。

また、授業の合間や放課後に図書館を大いに利用して欲しいと思います。過去数年の間に本学の図書館はハード、ソフトの両面において整備が進みました。文系図書を中心として、本学の図書館でなければ接することのできない貴重な文献や全集などが揃っており、また、文庫本をはじめ、一般書のコーナーも充実しています。館内には、いくつかの閲覧室はもちろん、ラーニング・スクウェア、ラーニング・スペース、PCサテライトコーナーなど、いろいろな教材や方法で学ぶことのできる施設も整っています。例え1日に15分間でも、あるいは1週間に1時間でも、図書館で過ごすことが積み重なれば、学生の間

に修めることのできる学びの量はどれほどになるのか想像できません。大学としても、引き続き可能な限り図書館の充実を目指していきたいと思っていますので、皆さんも是非、有効に利用して下さい。

当然のことですが、学生生活における勉学の場所は講義室や、イングリッシュ・ラウンジ、図書館に限られる訳ではありません。課外活動、ボランティア活動、アルバイトや様々な余暇活動など、例えそれが真にアカデミックな場でないとしても、それらを通して学ぶことはたくさんあります。新入生諸君には、そのような意識を持って、学生生活全般に対して前向きに取り組んで欲しいと願っています。

本学は就職対策にも力を入れ、おおよそ過去10年間にわたって、どの学部もきわめて高い就職率を達成してきました。学生諸君にとって就職は大変重要な目標であることを十分理解していますが、本来あるべき学生生活の中で就職のための力をつけていくことができれば理想に思えます。弘前大学としては、今後も就職支援に大いに力を入れていきますので、新入生の皆さんは、当面は広い視点を持って自らを育てていただきたいと願っています。

最後に具体的なお願いを一つ。弘前大学生になった以上は、大学内の節電、省エネルギーに一人ひとりが率先して取り組むことを義務として欲しいと思います。特に、これから暑い季節の到来を控えて、電力受給バランスの問題がクローズアップされていますが、それ以上に、地球環境の問題として、地球人である私たちは省エネルギーを意識する必要があります。加えて、現実的には、大量のエネルギーを消費している弘前大学が省エネルギーに向けて努力することは、社会的義務であると同時に、もっと卑近な事実として、光熱水料の節約を通して、皆さんの教育環境の改善、整備にもつながることです。是非、省エネルギーを心掛けて下さるよう強くお願いします。

お願いばかりを書きましたが、いずれも、皆さんの実り多い学生生活と輝かしい将来を願ってのことであり、そのためにも、皆さんと共に明るい弘前大学を創っていきたくと思っています。改めて、弘前大学生となった皆さんに心からの歓迎の意を表します。

人文学部へようこそ

人文学部長 四宮 俊之



新入生の皆さん、人文学部へようこそ。人文学部は、第二次大戦前に政府が旧制帝国大学へ有為な若き人材を送り込むべく全国の主要地に設立した官立高等学校のひとつである旧制弘前高等学校を継承し、その文科と理科を母体に新製の国立弘前大学文理学部として1949（昭和24）年5月31日発足しました。官立の旧制高等学校は、東北地方に仙台と山形、それと弘前の3校しかなく、それぞれが戦後に東北大学教養部、山形大学文理学部、弘前大学文理学部へと再編されました。現在の青森県立弘前高等学校は戦前の弘前中等学校を継承した別物です。

こうして新設された弘前大学文理学部は、その後1965年に人文学部と理学部（1997年理工学部となる）へと分離、独立し、2004年の国立大学法人化を経て現在の姿になっています。また、この間の1972年に大学院（修士課程）の人文学専攻科が設立され、1989年に人文科学研究科、次いで1999年人文社会科学研究科へとなっています。人文学部は、皆さんが在学中の2015年4月に文理学部からの分離より数えての創立50周年を迎えます。

ところで、皆さんは、人文学部への入学を決めた際に、大学での新たな学業とその先の人生へ自分なりの思いや目標、期待を持ったことと思います。大学では、それらの思いや目標などをぜひ忘れずに追求し続けてください。そうすれば、それがもし叶えられない場合も、人生の次なる水平線が必ず拓けてきます。また、それまでに皆さんが費やした努力は、何時か必ず誰かにより評価されていくようになります。皆さんの努力に期待しています。

ここで話を変えます。経営学において興味深い近年の議論のひとつとして「場のマネジメント」なるものがあります。これは、企業活動において

人間の担う各職位での仕事の多くは、往々に企業内での階層的な職位間でのタテの命令や権限関係によってなされると理解されがちですが、実際には仕事を実践していく物理的空間としての「場」（職場、工場、事務室など）での他人とのヨコの相互作用による情報交換や心理的刺激・共振などから影響される面が大きく、それが企業活動の活力向上などにつながっていくとされます。このことは、皆さんが取り組む大学での学業のあり方にも当てはまると考えます。皆さんは、キャンパス内の教室や図書館などの「場」において一定のカリキュラムのもとで教員から教科ごとの教育、指導を受けていきますが、それだけでなく同じキャンパス内の多様な「場」において学生仲間などとのヨコの相互作用による情報交換や心理的刺激などから大きな影響を受け、学業への取り組みにおける自主性を高めていくだけでなく、人間的に大きく成長する機会を得ていきます。

こうした大学における学生仲間などとのヨコの相互作用による双方での切磋琢磨などには、本人の自覚や熱意、努力のほか、それなりの持続的な取り組みが必要にならうかと思えます。でも、幸いにキャンパス内では多くの学生が学業の傍らで学生仲間との関係を創るべく、アンテナの感度を上げているはずで、人文学部は、英語で学部名を Faculty of Humanities ということから読み取れるように、文化や社会を創造したり、それを支えたりする人間そのものや人間の営みについて人文科学や社会科学、あるいは双方の融合をもって考えていく「場」として存在します。そこでの学びの始まりは人間への関心にはかなりません。人文学部での学業への取り組みが、皆さんの人生や将来の職業生活などにとってかけがえのないものとなるよう切に願っています。

新入生の皆さんへ

教育学部長

伊藤 成治



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから皆さんがこの弘前大学で、充実した学生生活をお送りになることを心より願っています。

教育学部は、幼児・児童・生徒の支援者となる学校教員と地域社会で学校外教育や成人教育に関わる専門家の養成を行っています。

学校教育における課題が、一層複雑・多様化している現在の状況において、学校は、今以上に、保護者や地域住民との適切な役割分担を図りながら、子どもたちのバランスの取れた成長を目指し、活気ある教育活動を展開する場となる必要があります。その際、教育を提供する側からの発想だけではなく、教育を受ける側の子どもや保護者の声に応える教育の場となることが求められています。保護者や地域住民の期待に応え、信頼される学校づくりを進めていくためには、何よりも教員自身が自信と誇りを持って教育活動にあたる必要があります。

教育学部には多様な課程・専攻・専修が用意されています。そこでは、学生自身が自分で課題を見つけ、考え、判断し、行動することで、問題解決のための資質や能力、とりわけ、その後の長い職業生活を支えることになる、自信と誇りの種になるものを得ることのできるカリキュラムが設定されています。

ところで、昨今の日本は、高齢化と少子化の問題が明確になってきています。日本は社会全体で、あらゆる分野の改革に取り組むときを迎えているようです。世界では、環境、エネルギー、食糧などの問題が深刻化しつつあります。

このような時に重要なのは、人類の歴史や現代社会に通ずる普遍的な考え方、高い価値観を身につけ、そしてそれを現実の問題に果敢に適用して

いくことです。

その前提として深い知識とともに、それを運用できる訓練、すなわち、独りよがりではなく、仲間や先生と一緒に考えられる力とコミュニケーション能力とを身に付けるための訓練が不可欠となります。知識というのは、それ自体としてももちろん価値あるものですが、ある知識を自分で納得するだけでなく、人に伝え納得させることが必要だからです。

皆さんは、主としてそれぞれの専門分野を学修していく中で、このようなことを体験していくことになると思います。

話の筋からは少し逸れますが、高木貞治著『近世数学史談』から、私の専門とする数学にまつわる好きな文章を紹介します。

「ガウスが進んだ道は即ち数学の進む道である。その道は帰納的である。特殊から一般へ！それが標語である。それは凡ての実質的な学問に於て必要なる条件であらねばならない。数学が演繹的であるというが、それは既成数学の修業のみに通用するのである。自然科学に於ても一つの学説が出来てしまえば、その学説に基づいて演繹をする。しかし論理は当たり前なのだから、演繹のみから新しい物は何も出て来ないのが当たり前であろう。若しも学問が演繹のみにたよるならば、その学問は小さな環の上を永遠に週期的に廻転する外はないであろう。我々は空虚なる一般論に捉われなくて、帰納の一途に精進すべきではあるまいか。」

皆さん一人ひとりが自己の可能性を最大限に引き出し、新しい時代に向けて果敢にチャレンジするために、弘前大学でしなやかな、かつ粘り強い知力・気力・体力を養ってくださることを心から期待しています。

「ご入学おめでとうございます」

医学部長 中路 重之



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。4月に弘前大学の学生として正門をくぐった感想はいかがでしたか？

私は昭和48年、長崎県という気候も文化も異なる所から弘前大学に入学しました。入学したのは勿論4月。大地に萌え出してくる春の息吹のなかのあの高揚が昨日のこのように思い出されます。

「名山名士を出す」という言葉があります。しっかりしたバックグラウンド（土地柄）からは立派な人物が輩出する、という意味です。青森県の土地柄、そのなかに位置する弘前大学。私はこのいずれもが「名山」であると考えています。厳密に言えば名山でなくてはならないと言う気負いもあります。

青森県の四季はさわめて明瞭でそのいずれもがとてもきれいです。とくに爛漫の花と新緑の春、目に痛い紅葉の秋は特筆ものです。世界的に見てもこれほどの季節美を持った場所はないでしょう。

このような四季に絶妙に配された山（八甲田山、岩木山）、海（太平洋、日本海）、湖（十和田湖、十三湖、小川原湖）、川（岩木川など）、湾（陸奥湾）のラインナップはただ見事です。

日本最初の世界遺産、白神山地。静かな全国的なブームです。たくさんの自然愛好家が訪れています。弘前からすぐそこです。

最初に十和田湖を訪れた時、正直ショックでした。雄大でしかも美しい。御鼻部山・瞰湖台からの眺め、遊覧船から見た山々の佇み。奥入瀬とのマッチング。新緑の頃であれ、紅葉の頃であれ、天下一級の絶景です。

岩木山ほど象徴的な山はないでしょう。あえて挙げれば鹿兒島の桜島ぐらいでしょうか。本物の富士山の半分の丈とはいえ津軽平野のあらゆる場所から眺められます。そして津軽以外からは見れないのです。

私のもっとも好きなのは津軽平野です。金木の辺りから北西の方向を見ればはるかに続く一面の田んぼ。春夏は緑、秋は一面の黄金色。糸井重里氏が人の手を通した自然を「手自然」と表現しましたが、この平野はまさにそれです。豊かさがこ

こにはあります。

年中強風が吹きまくっている竜飛崎、ピンクの夕焼けの十三湖。落ち込んだとき、真冬にここを訪れたことがありました。茫漠たる白き地平に目を置けば、知らずと湧き起る「まあいいか」。そんな不思議な魅力と明るさがあります。

ご存知日本一の弘前の桜。雪の岩木を借景に配した松緑と城。まさに出来過ぎた図柄です。

三内丸山には驚きます。なんと日本の出土土器の半分以上がこの遺跡由来のもので。とてつもないスケールです。

津軽民謡も有名ですが津軽三味線も聞かせます。今をときめく津軽三味線奏者の木乃下真市（和歌山出身）が「私の劣等感津軽に住んだことがないことである」と語ったほどです。

私が棟方志功を好きなのは彼が青森大好きで、それを創作の糧にしていたことです。淡谷のり子という往年の大歌手も同じです。あの話し方（テレビでも堂々とした津軽弁）を聞くとそう思います。太宰治もそうです。それでなくては小説「津軽」は書かなかったでしょう。

青森のねぶたはすごいですよ。言われている「東北四大祭」ではなくて「日本三大祭」のスケールです。弘前ねぶた、五所川原立佞武多もいいですが、こみせ通りを練り歩く黒石ねぶたも秀逸です。なによりも元気と情緒があります。

我が弘前大学のスローガンは「世界に発信し、地域と共に創造する弘前大学」です。「世界発信」のためには「地域と共に」が必須であるとも読めます。これまさに「名山名士を出す」の理念ののりつたものです。

そのようなわけで、弘前大学のカリキュラムには、地域との結びつきを大切にされたものが数多く組まれています。たとえば、医学研究科は「地域医療」が最大のキーワードです。

新入生の皆さん、このような青森県そして弘前大学で思う存分キャンパスライフを楽しんでください！そして名士として羽ばたいてほしいと願っています。

充実した学生生活を

医学部保健学科長
對馬 均



新入生の皆さん入学おめでとうございます。厳しい受験勉強を経て獲得した“大学生”であればこそ、“初心忘るべからず”といわれるように、皆さんには、入学にあたって掲げた目標に向かって、これからの学生生活を充実させていただきたいと思います。

さて、皆さんが思い描いた目標とはどんなものでしょうか？ 高度化・専門分化した現代医療においては、医師のイコール・パートナーとしての医療専門職の役割が重要視され、それぞれの分野で専門的な知識・技術が深められています。医学部保健学科の新入生の多くは、こうした医療専門職を目指して入学してきたことと思います。

一般に、卓越した専門知識や能力を備えている人をスペシャリストと呼びます。スペシャリストが果たす役割が重要であることは言うまでもありません。しかし、スペシャリストは狭い範囲の知識や技術を深く追求するがゆえに、ややもするといわゆる“専門バカ”に陥りがちです。したがって、専門以外の幅広い分野にわたる知識と視野をもつことも必要となります。現代社会において求められる人材とは、一つの分野での専門的能力や知識をマスターし、しかも幅広い分野にわたる知識と視野をもっている人材、すなわちスペシャリストとジェネラリスト両面を兼ね備えている人材であるとされています。こうした人たちは、そうした両面を「T」の文字になぞらえて「T型人間」と称されています。地域医療や高齢者ケアの現場で求められているのは、まさにこうした資質に他なりません。

幅広い見識と視野を備えた人格は一朝一夕には身につくものではありません。教養教育はもちろんのこと、課外活動や友人との語りを通して、多くの違った考えや生き方に接する中で培われる

ものでしょう。全国でも最大規模の5専攻を有する医学部保健学科はこうした点でも最適の環境といえます。

文京キャンパスと本町キャンパス間の移動が大変だとは思いますが、便利さの追求だけが文化ではないはずですから、これを逆手にとってプラスに変えるという発想も欲しいところです。困難に直面したとき人間の真価が問われることとなりますが、そのとき頼りになるのはそれまで培われた知識と経験に他なりません。自信を持つことも必要ですが、自信は努力の積み重ねから得られるものだと思います。畑村洋太郎氏の提唱する「失敗学」という発想にみるように、失敗を恐れず失敗から学ぶことも必要でしょう。

「よく学び、よく遊べ!!」

青春時代に与えられた4年間という時間を有効に使い、目標達成を目指してください。

大学は面白いですか？

理工学部長

吉澤 篤



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。入学前は大学生になったら何をしようと夢見ていましたか。あれもこれもと青春のてんこ盛りといった方もいるかもしれません。あるいはしっかり勉強しようと準備されていた方もおられるでしょう。今の皆さんはいかがでしょうか。私は1976年に大学に入学しましたが、下火になったとはいえ学生運動がまだ盛んで、政治色の強い立て看板が立ち並び、ヘルメットを被った学生が学内を闊歩していました。私は青春のてんこ盛り派で、自由で刺激溢れる大学生活を期待しました。しかし、始まってみると、時間割は授業で埋まり、講義内容は私の理解を超えて難しく面食らいました。また、西洋史や日本国憲法など理系以外の講義は面白かったのですが、専門とすべき化学に今一つ興味が持てずにいました。そして自らの進路に悩みもしました。しかし、3年生となり無機化学の講義を聞いた時に高校ではあたかも暗記科目のように扱われていた化学が、量子論に基づいて見事に説明できることに講義室で心が震えた事を覚えています。さらに大学院では、新しい現象を創り出す事の面白さに取り憑かれました。教授室では先生の口からこれからの化学が語られ、その研究哲学に触れることができました。それは宝であり、その後の私の根幹となりました。大学は今までの学問体系を学ぶ場であるとともに、新しい科学・技術を創り出すところでもあります。また、勉学のみならず、サークル活動など自らの可能性を引き出す場もあります。そのような中で様々な出会いがあるでしょう。ぜひ大学のすばらしさを味わってください。

さて、大学は自らを訓練する場でもありますが、先生が手取り足取り教えてくれるというわけではありません。充実した大学生活を送るための基本を申し上げます。まず、身につけて欲しいことは挨拶です。挨拶は相手の存在を認めることで、さわやかな挨拶は互いを幸せにします。次

に、読み書きです。本を読むとは著者の伝えたい事を理解することであり、文章を書くとは自らの考えを論理的に整理することになります。これらは頭を鍛える訓練になります。考えることの面白さを実感してください。教科書ばかりではなく、いろいろな分野の本を読み、別な人生を追体験し、読書の楽しさの虜になってください。もう一つ、皆さんには頭の強い人になって欲しい。これは集中力が持続することと少々叱られてもへこたれないことを意味します。カミソリのような鋭さも大事ですが、それ以上に物事をやり遂げるにはタフでなければなりません。また、叱られ、諭されることで成長します。先生方の教えを半身に構えず正面で受け止めてください。次は大学院に入学された皆さんに一言申し上げます。大学院時代は研究に専念できる貴重な時期です。それぞれの専門ではそのスケールや時間軸が異なります。宇宙を対象にするものもあれば、電子を扱う分野もあります。今困っている人にすぐ役に立つような技術の開発もあれば、100年後にそのありがたみがわかる理論の研究もあるでしょう。やり方には違いがあるでしょうが研究するということに変わりはありません。研究者の仲間入りをした皆さんは研究の標準を身につけてください。「一日これぐらい仕事（質と量）をするのが当たり前」という自覚です。この自覚の違いは時間の経過とともに大きな差となります。

私は、皆さんが大学を卒業後10年経ち社会の中核として活躍する頃に、「弘前大学で学ぶことが出来て良かった」と言ってもらいたい。懐かしく、楽しいだけの大学生活はアルバムの中で終わります。人生は無限だと思いませんか。或はゲームのようの何度でもリセットが可能だと誤解していませんか。私は若い皆さんの時間を大切にしたい。最後に私の恩師の言葉を贈ります。「理論武装されたオプティミストたれ！」

弘前大学での「絆」を大切に

農学生命科学部長
鈴木 裕之



入学生の皆さん、入学式から少し時間が経ちましたので、大学生活にも慣れ始めた頃だと思えます。昨年の今頃は東日本大震災直後で、いろいろな行事が取りやめとなり大変な状況でした。本学では入学式を延期したため、講義は例年より1ヵ月ほど遅く始まりました。皆さんにとっても、生活面の大変さばかりでなく、受験勉強の真っ最中だったはずですので、普通に勉強ができなくなった方も多かったと思います。あれから1年。長引く円高や欧州某国の債務超過などの影響で、経済状況は必ずしも好調とは言いきれませんが、震災の影響が色濃く残っている状況です。大変な状況での大学生活の始まりですが、入学生諸君の奮闘と今後の活躍を期待したいと思います。

あれから1年。今年は入学式を例年通りに実施することができました。いつものことが、いつも通りにできるという、こういう形の幸せもあることを、震災を経験して改めて感じています。また、震災直後の被災者の様子や復興に手を貸している人たちの様子から、人との「絆」の大切さも再認識させられました。

皆さん、全国から集まった人との出会いを大切にしてください。まずは同じ学科の、志を同じくする仲間との出会いです。だんだん慣れてくると、学科を超えての付き合いもあるでしょう。また、自分で選んだ課外活動では、学部や学年を超えた出会いがあります。そして、皆さんが弘前大学で出会う人の中に、自分の一生にわたって影響を及ぼす方がきっといらっしゃるはずです。つまり生涯にわたりお付き合いする親友であったり、恩師であったりです。中学校や高等学校でも親友と呼べる友達が居たと思いますが、私自身の経験からいっても大学時代に付き合い合った親友はまた意味合いが違ったものがあります。ひょっとす

ると、今、あなたの傍に座っている方が生涯の親友となるかもしれません。弘前大学で、人との交流を活発にしてください。友人との「絆」を大切にしてください。

もう1つ大学生活で特徴的なことがあります。高等学校までの勉強と大学での勉強との決定的な相違点です。それは、求める答えが必ずしもひとつとは限らず、複数の考え方が存在する場合もあるということです。つまり、ある問題には複数ある考え方のうちのどれかひとつをとっていても、完全に誤っている訳ではないといった場合です。その様な時に遭遇した場合、問題の結論を短絡的に引き出そうとするのではなく、むしろ、何故そのように複数の答えが出てくるのか、その問題の所在をじっくりと探究する習慣を身に付けて欲しいと思います。

弘前大学での人との出会いを大切に。そして、この言葉が実感できる出会いがあることを心から期待しています。答えがひとつとは限らない問題に遭遇しても、新たに出会った友人との議論や読書等を通して、いろいろな事に幅広い関心を持ち続けて欲しいと思います。そして、その過程を通して自分の適性を見出し、皆さん自身の将来計画にとって最も適切な道を切り拓いていってくれることを心より願っています。

未来のために

人文学部人間文化課程 1年 佐々木恭聖

弘前大学に入学して一か月、毎日の生活が充実しているためか、とても早いものに感じます。今までずっと弘前で暮らしてきた私は、他県から来た学生たちと触れ合うことで自分の世界が狭かったことを改めて実感しました。

大学という場所は自主性が求められます。授業は今までと違い、自分の判断で受ける講義を決め自分で登録しなければなりません。内容も教員の話聞いてそれで終わりということではなく、当然ながら自分から探求し、より高度なものを求めていくことが必要です。

しかし、自主性が求められるということは一方で、自分の行動次第で大学生活は無数の可能性を持つということにもなります。大学の講義は1コマ90分でこれまでの授業よりも長いわけですが、自分で興味を持った講義を選んでいため飽きることなく最後まで集中することができます。勉強以外のことでも、サークルやアルバイトなどこれまでの生活にはなかったものにも取り組むことができます。

大学生活は4年しかありません。社会に出てからの時間を考えると、とても短い時間です。この短い時間の中で、私は自らの未来を切り開くために精一杯の努力をしようと思います。



希望に満ちた大学生活を迎えて

人文学部現代社会課程 1年 安中つぐみ

私が小学生の時、妹が病気で入院したのをきっかけに私は医者になりたいという夢を持ち、高校三年生まで意志を曲げずに誰よりも努力を重ねてきました。しかし、なかなか成績に結びつかず、私は長年の夢を諦めました。諦めたところで新たな明確な夢が見つかることもなく、私は昨年前期試験で落ち、後期試験で被災しました。停電で街中がパニックになっている中、私はそこの市役所にたどり着き、三日間を市役所の避難所で過ごしました。そこでは市役所の職員の方々が走り回って情報収集をしたり、避難してきた人たちに毛布を配ったり、中には三日間寝ずに作業にあっていた職員の方もいました。その姿を目の当たりにして、私も自分を犠牲にしてでも市民のために働ける公務員になりたいと思い始めました。そして一年間の浪人生活を経て、この春、弘前大学人文学部に入学することができました。今では公務員になるという大きな夢を持ち、毎日の授業も真剣に取り組んで、充実した生活を送っています。大学は高校とは違い、自主性が問われる場なので、自ら積極的にボランティアや資格の取得など様々なことに挑戦し、自分を高めていきたいと思っています。一日一日を大切に過ごし、かけがえのない大学生活を送りたいです。



新たなスタート!!

人文学部経済経営課程 1年 佐藤 少南

受験を終え、新たな人生をこれから少しずつ歩もうとしています。「大学」という新しい環境は私にとって沢山の不安がありますが、自分の将来に向けての準備ができる環境だとも思います。

私は、二年前、高校で行われた出前講義で弘前大学人文学部・マーケティングに関する講義を受けました。そのときに初めて経営に興味を持ちました。それまでは、気にもしていなかったことに興味を持ち始め、もう一度講義を受けたいと思い弘前大学に入学したいと思いました。

弘前大学に合格してから、自分の興味のある講義を受けられると、とてもワクワクしていました。

しかし、まだ講義を受けて二週間しか経っていないのに、90分という時間はとても長く感じられ、いつも座って筆記することだけで精一杯です。聞くことも大切なのに、いつも後悔しています。大学で学べるチャンスを無駄にしないように、毎時間の集中を切らさないように努力したいと思います。

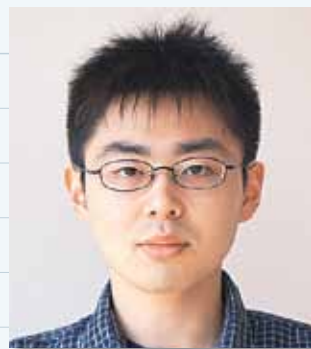
このように、「大学」では、専門的なことを学ぶのはもちろんですが、一人の人間として成長し、社会の一部として沢山学ぶことのできる場所なのだ改めて思いました。入学させてくれた両親への感謝の気持ちを忘れずに、充実した四年間を送りたいと思います。



大学院生になりたい

人文社会科学研究科文化科学専攻 1年 米谷 翔太

私が弘前大学の学部生から院生になって1ヶ月経ちましたが、未だ生活に慣れていません。こんなに大学院生の生活が大変だとは思いませんでした。授業数は少ないです。しかし、それぞれの内容が私にとって難しいのです。ついていていません。こんな私とは異なり、他の大学院生は優秀です。彼・彼女らは多くの事物に精通しており、授業ではそれに基づいて的確な発言をし、私の抱くものとは次元の違う疑問を抱きます。そんな彼・彼女らと共にいて思うのが、私は大学院生になれていない、ということです。学部生の頃に、それ以外は無視して卒業論文のテーマだけをただ研究していたことが悔やまれます。



ですから、肩書だけではない実を伴う大学院生になることが今の私の目標です。そのために修士論文で扱うものだけでなく、それ以外のものも勉強したいです。また、漠然と抱いた疑問をしっかりと言葉に出来る力や、しっかりと事物を理解して相手に伝えるように話したり、書いたりする力を身につけたいです。そして実を伴う院生となって、上述の勉強や力を修士論文作成に役立てられれば、と思っています。

後、学部にいる後輩に的確な助言が出来る先輩になればな、とも思っています。

諦めず、最後まで頑張ろう

ハヤトウン ナビラ
人文学部人間文化課程 2年 HAYATUN NABILAH

新入生の皆さん、弘前大学への入学おめでとうございます。私は今年度2年生になり、今までの一年間があっという間だと感じました。弘前大学で勉強するのは、私には留学生として楽なことではありません。けれども、好きな科目を勉強することができたり、色々な人と出会ったりして、ここにいる間がかげがえのない時間だと思います。



授業の時、授業の内容が全然分からなかったり、自分にとってむずかしいと思うこと、やらなければいけなかったりすることがあるかもしれませんが、自分は一人ではないことを忘れないで、自分なりに勉強したり、先生に指示してもらったり、友達に聞いたりすれば、何とかかなと思います。天才ではないので、失敗ぐらいはするかも知れませんが、そこで諦めてしまえばすべてが終わるので、絶対諦めないでください。

そして、ここにいる4年間、卒業後後悔しないように、ぜひ色々なことを体験してください。大学でしかできないことがあります。なぜなら、時間が過ぎてしまうとどんなに後悔しても、過去には戻れないからです。だから時間は貴重です。頑張ってください。

卒業後を充実させる大学生活とは

人文学部経済経営課程 4年 大谷 弘恵

就職活動を経験した身から、大学生活が始まったばかりの皆さんへ、少々アドバイスをしたいと思います。自分がやっておけば良かったと後悔していることを挙げます。

1つ目は、後悔がないくらい遊ぶことです。遊ぶというのは、飲み会やゲームだけではありません。行きたいと思うなら、たとえ海外でもどんどん行って欲しいと思います。社会人になると学生時代よりも自由な時間が減ってしまいます。「時間をかけた遊びは今しかできない！」と思いながら過ごして欲しいです。



2つ目は、本を読むことです。私は就職活動の際に、「社会人と学生の違い」について問われたことがありました。その時に同じ部屋にいた学生4人は皆、「責任」と答えました。就職活動で必要だと言われるものの一つに“個性”があります。全員同じ回答では、個性がないのでしょうか？いいえ、そういう訳ではありません。同じ回答でも、その答えを導く過程や説明する際の言葉選びで個性は出てくるのです。新入生の皆さんには、これから多くの本を読み、言葉や表現方法の引き出しを増やして欲しいです。

抜粋すると以上の2つになります。ぜひ卒業後を意識しながら、大学生活を充実させてください。

りんごの町で

教育学部学校教育教員養成課程 1年 吉川 梓

「弘前」と聞いて真っ先に思い浮かぶのは、りんごでした。正直、最初は桜が有名だったことも城下町であることも知りませんでした。入試で初めて青森県を訪れた際、あまりの雪の多さに驚き、面接で「雪はどうかしら？」と聞かれ、率直に「びっくりしました！」と答えてしまいました。今となっては面接での失敗も笑い話ですが、その時はまだ、面接官である先生方とこうしてまたお話できるようになるとは到底思えませんでした。

幸運にも、美術専修では新潟県・千葉県・宮城県・八戸市・青森市・弘前市から集まった7人の「愉快的仲間達」と出会うことができました。美術概論や素描など授業も興味深いものが多く、友人たちから学ぶこともたくさんあり、とても贅沢な時間を過ごしていると思います。

今では弘前の町にも慣れ、自転車でごこへでも出かけていきますが、最終的に行き着く先はいつも弘前大学の自転車置場です。

これからの4年間、ほぼ毎日通うこの大学で、仲間と共に全力で学び、吸収して、将来その知識と経験を生かしていけるように、今からしっかり鍛えていきたいと思っています。



ピカピカの一年生

教育学部学校教育教員養成課程 1年 松本 思奈

ついに私も大学生になりました。しかも1ヵ月が過ぎました。最初の2週間は講義とか単位とかややこしくて本当に頭がパンクしそうでしたね。

大学生生活に慣れてくると、授業もサークルも楽しくて毎日が充実しています。サークルはいくつか掛け持ちしているのですが、今のところ一番楽しいのは「のらくろ」というバスケットボールサークルです。先輩方は皆ファニーでシュールでステキです。

個人的に少し不満なのは英語の授業レベルが中学校が高校1年生のような内容だということです。スピーキングとリーディングが主体なので仕方ないかもしれませんが、本当はもっと濃密に文法とかイディオムをやりたいよー!!! って心の中で叫んでいます。英語大好き人間です。

つまらないことよりも楽しいことの方が多いし、バイトや趣味との両立も可能だし、大学生活はとてもすばらしいもので、エンジョイしています。これから実習や専門的な講義が増えていくことも楽しみの1つです。

コンビニの品揃えが豊富な点、サークルの数がハンパない点、学科の先輩方が優しい点、弘大にはステキポイント満載です。

さばらず! 焦らず!! 堅実に!!! 4年間の大学生活を送りたいと思います。



大学生になって

教育学部生涯教育課程 1年 田制 佳奈

弘前大学へ入学して約1ヶ月、ようやく日々の生活も落ち着いてきましたが、高校までとの違いに戸惑うことが多く、大変な1ヶ月でした。

大学では時間割を自分で決め、連絡も先生から教えていただくのではなく、自分で確認しなければならないため、自己管理と自己責任というものの重要性を改めて実感しました。また、1人暮らしということもあり、今まで親に頼ってきた様々なことをすべて1人でこなさなくてはならず、未だ勉強との両立に不安はあります。しかし高校までと違い自由な時間が増えたため、時間を有効に使ってやらなければならないことをしっかりとこなしていきたいと思っています。

4年間はあっという間に過ぎてしまうかもしれませんが、たくさんのごことに挑戦し、充実した大学生活を送りたいと思います。

新入生の皆さんへ

教育学部学校教育教員養成課程2年 加藤 萌恵

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。入学から早2ヶ月が経ち、大学での新しい生活にも慣れてきたことかと思えます。大学では、高校と違うところが多く、はじめは戸惑った人も多いのではないかと思います。HRもなく、履修登録も自己責任、自由な時間も増えたのではないのでしょうか。

私は大学に入ってから最近特に感じることは、「本当に、自分はどうなるかは自分次第なのだ」ということです。例えば、私の専攻では小中高と、どの免許を取るかでコース選択ができます。また、サブでほかの教科や、特別支援などの免許を取ることも自分次第では可能です。選択肢はいくつもあります。また、「自由な時間が多い」と実感している人も少なくないのではないと思いますが、その時間をどう使うかも自分次第です。サークルでも読書でも美術館に行くでもボランティアするでも、その時間をどう使うかによってみなさんの大学生活は大きく変わってくるかと思えます。

大学は自分がやりたいことをやることのできる特別な時期だと思います。自分の可能性を自分が開いていけるように、学校生活を楽しんでください！

新入生の皆さんへ

教育学部生涯教育課程3年 木村 貴仁

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

弘大に入学されてから、早くも二ヶ月が過ぎ、友人もできて、サークルやアルバイトなども決めて、そろそろ大学生活にも慣れてきた頃ではないでしょうか。

教育学部には恵まれた施設と環境があります。特に、今年4月になり美術棟と音楽棟の改修工事が終わり、私たちはすばらしい環境で芸術について学ぶことができます。新入生のみなさんは、二年生になるときに所属するゼミを決め、この新しい施設で自分の学びたいことをのびのびと研究することができます。とは言っても、まだまだ一年生の時点では、はっきりとした対象が見つからないことでしょう。それは私も同じでしたし、周りの友人も同じくそうでした。

しかし、この芸術文化専攻では美術専攻の人であっても音楽の歴史に触れることもでき、音楽専攻の人が映像について触れることもできます。ここではさまざまな芸術に、いろいろな形で触れ、勉強することができるのです。

なので、今は存分に迷ってもいいので、この素晴らしい環境でたくさん芸術に触れてみましょう。そうすれば、何を学びたいのか、見えてくるはずですよ。



新入生の皆さんへ

教育学部生涯教育課程4年 間山 廉

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。そろそろこの生活に慣れてきたのではないのでしょうか。僕はまだ慣れません。先輩として何か皆さんの今後のためになるような素晴らしいことを言ってみたいのですが、簡単には思いつきません。皆さんより少し長く大学にいます。

この三年間で感じたことを述べることにします。学業にはしっかりと取り組むに尽きます。ですが、それだけでは物足りないかもしれません。入学時僕は楽しいことが降って来ればいいと思っていましたが、そんなことがあるはずはないので、未経験で楽しめそうな部活動に入部しました。部活での三年間は、大変なこともありましたがとても楽しめました。自分たちで活動運営をしたり、計画を練ったりと仕事面で苦しいことが多々ありました。しかしその分、やりがいがあったし、面白いことだらけでたくさんありました。

もしも、大学がつまらないと感じている方がいたら、なんでも構わないので、あまり考えずに何かに挑戦してみたらいいかもしれません。僕が今皆さんに言えることはこの一文に尽きます。学園だよりの他の在校生の記事を読み、素晴らしい教授、先輩や同期と親しくなって、アドバイスをもらうなどしながら、大学生活を充実させてください！

いま、そして抱負

医学部医学科 1年 阿部 純弓

入学してから早一か月。私が最近強く感じていることは、弘前大学に入学できてよかったということです。様々な人と出会い、いろいろな刺激を受けながら楽しく過ごしている、この現状が好きです。やさしく接してくれる友人や、強い志を持って努力する同級生をはじめ、頼もしい先輩方、興味深い講義をしてくださる教授、そして私を支えてくれる家族に心から感謝しています。ありがとうございます。そんな私が大学6年間で目標にしていることは、人間として成長することです。今の私は、将来医師として働かせていただく立場としてはあまりにも無知で未熟です。したがって、この6年間で吸収できることをすべて吸収し、視野を広げていきたいです。そのためには勉強だけではなく、部活動やサークル活動、さらにはアルバイト、自炊といったように様々なことに挑戦して、自らの糧にしたいです。私は今、3つの部活・サークルに所属しています。自分が興味を持ち、やりたいと思ったことに徹底的に取り組んでいくこと、これも私の目標であります。医師として将来働くという責任を胸に、限られた6年という時間を有効に使い、これから頑張ります。どうぞよろしくお願い致します。

夢に向かって

医学部医学科 1年 伊藤 恭平

新入生の伊藤恭平です。出身は青森市です。私が弘前大学に入学した理由は、将来医師として青森県で働きたいと考えたからです。青森県は医師不足が深刻で、十分に医療が行き届いていない地域が多くあります。この青森県が抱える大きな問題に取り組むことで、小さいときからお世話になった青森県に貢献したいと考え、医師を志望しました。

入学して感じたことは、人間関係をととても大事にしている大学だということです。医学部では、新入生歓迎パーティーや合宿セミナーなど同学年の人たちと交流する機会が多くあります。また私は医学部サッカー部に所属していますが、先輩後輩の交流をととても大事にしている部活です。高校のときは学校側で交流の機会をつくってくれることはありませんでした。入学前、医学部は勉強ばかりやっているイメージがありましたが、将来医師となる上で人間関係は重要です。弘前大学に入って、勉強だけではないということに改めて実感させられました。私が目指している僻地での医療は、地域とのつながりが大切になります。そのためには大学生活において、人とのつながりを大事にできる人間になりたいと思いました。

弘前大学の新たな一員となったことについて

医学部医学科 1年 丹場 太陽

僕は小さいころから弘前大学医学部医学科に入学したいと思っていました。僕が喘息で軽い肺炎を起こし弘前大学附属病院に運ばれ呼吸することもままならない状態でしたが、医師の献身的な治療、看護師の夜中何度も点滴を取り換えてくれる姿に心を打たれ今まで漠然と考えていた医師になりたいという思いがさらにいっそう強まりました。それから高校に入学し一年のころからずっと自分の治療にあたってくださった医師の姿を思い描きながら必死に勉強しました。しかし、また高校三年のセンター試験の一週間前に再び喘息の症状があらわれ一月に入ってからはほとんど勉強していない状態で臨んだ結果弘前大学の医学部はおろか他のどの国公立大学の医学部にも手の届かない点数を取ってしまいました。しかし結果一浪することになってしまいましたがこれも自分にとって意味のあることだと信じ仙台の予備校に通いひたすら勉学に励みました。そしてその甲斐あって念願の弘前大学医学部医学科に入学することができました。

そして僕は今、たくさんの良き学友に恵まれ、尊敬できる先輩や先生方の力を借り喘息で苦しんだ頃の気持ちを忘れずに勉学と部活に励んでいきたいと思えます。

新入生のみなさんへ

医学部医学科2年 加藤 和史



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。とは言っても、これが読まれている頃はもう6月ですので、大分喜びも薄れてしまっているかもしれませんね。新しい生活に慣れてきた人、まだ不安がある人、様々な人がいるとは思いますが、1年間という時間は本当にあっという間に過ぎてしまいます。医学部1年生の1年間は、おそらくこれからの6年間の中で最も自由な時間があるので、ぐずぐずしていたらもったいないです。勉強以外にも、やりがいのあるものを見つけられたら大学生生活はより楽しくなります。

おすすめなのは部活動です。「医学部の部活なんて、どうせ勉強の片手間に軽くやっているんでしょ？」そう思っている方もいるかもしれませんが、まったく違います。部活の片手間に勉強を…。というのは冗談(?)ですが、医学部の各部はそれほど真剣に活動しています。僕は医学部サッカー部に所属していますが、運動部には毎年夏に一大イベント「東医体」があります。東医体は色々な意味で「あつい」大会です。試合も熱ければ、応援も熱い。そして天気も暑い、というようにもう「あつさ」だらけです。昨年、初めて東医体を経験しましたが、その盛り上がり様に終始圧倒されっぱなしでした。あの雰囲気皆さんにもぜひ体感してほしいです。

最初にも述べましたが、医学部1年生には「時間」があります。やってみたいこと、挑戦したいことを見つけて積極的に取り組んでください。それが将来的には、皆さんの人としての幅を広げることにつながるのではないかと思います。この1年が新入生の皆さんにとって充実したものになるよう心から願っています！

大学生になって

医学部医学科2年 福井 健太



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。受験生活を終えて、まったく新しい生活が始まり、その喜びの一方、新しい友達関係や、サークル、部活、初めての一人暮らしなど、多くの不安もあることと思います。

しかし、これからの大学生生活は高校までとは違う楽しみがたくさん待っています。一つはお酒です。飲み会は人と人の心がつながる素晴らしい場です。お酒に弱くなかなか積極的に参加しにくい人もいるかもしれませんが、飲み会は雰囲気を楽しむ場です。あまり量は飲めなくても、雰囲気に酔えればきっといい思い出になります。お酒に強い人も弱い人もみんなで楽しんでください。

もう一つは遠出です。高校生までの生活は時間に追われ、なかなか遠出なんてできなかったと思います。しかし大学生、特に一年生の間は自分の時間がたくさんあります。今まで行ったことがなかったいろいろなところに行ってみてください。友達と車でちょっと遠出、彼女と旅行、一人旅、何でもいいと思います。青森県にも白神山地や八戸、大間、奥入瀬溪流など多くの名所があります。県外から来た人はまずはそんなところに行ってみるのもいいと思います。今まで行ったことのない場所に行ってみるだけで新しいことが学べるだろうし、何よりいい思い出になると思います。

しかし大学生はもちろん勉強もしなければなりません。勉強も高校までと違い、学ぶか、学ばないかは自分次第です。まじめに取り組むか、取り組まないか、それも自分次第です。遊びに関しても勉強に関しても自分のことは全部自分で決める。それが大学生です。悔いのない有意義な大学生活を送ってください。

(※未成年者の方の飲酒は禁じられております。充分注意してください。)

私なりのオアシスを

医学部保健学科看護学専攻1年 佐藤 智子



気が付けば、入学してから一カ月が過ぎようとしています。慌ただしい日々にも徐々に慣れ、落ち着いた生活が送れるようになりました。この一カ月は、初体験の事がいっぱいでした。時間割を組み立てたり、サークルや部活動の歓迎会に参加したり、講義式の授業が始まったり……。受験中は、大学生活について「楽」と想像していました。現在は、蓋を開けて「まあ、びっくり!!!」という感じです。しかし、「辛い」「後悔」という気持ちはありません。夢をあきらめる気持ちも持っていません。むしろ、同じ志を持つ仲間ができ、以前よりも将来に対する思いが強くなりました。そして、「友人に負けたくない」と、以前よりも努力する自分があります。また、21世紀教育やサークル・部活動では、自分と違う考え方を持った方とたくさん出会います。「そんな考え方もあるのか!!」と毎日驚きにあふれています。きっとそういったことの積み重ねが人間性を深めるのかな?と感じます。

入学前に「大学は人生のオアシス」と言われました。入学してまだ一カ月しかたっていませんが、私なりの「オアシス」がうっすら見えた気がします。これからの大学生活で私なりの「オアシス」を深く探り、繰り広げていきたいです。

弘前大学の新たな一員となったことについて

医学部保健学科放射線技術科学専攻1年 佐藤千鶴子



私は大学に入学し、サークルや同じ学科などで多くの人達と出会い想像以上に楽しい大学生活を送っている。しかし、弘前大学の一員になったと感じたのは大学での講義が始まり、慣れてきたころである。

弘前大学の一員になったことで、ただ単に友人関係や、サークル関係のみが楽しいだけではない。私は、自分で選んで大学を決め合格のために勉強して受験した学科であるから、興味のあることをとことん学びたいと考えていた。そして今、高校とは違い、勉強に対する考えがやらされて勉強するのではなく興味を持って勉強するとう考えに変わりつつある。だからこそ今学んでいる多くの科目が楽しいと考えられる。そして、今ある毎日の勉強に覚えなくてもよいところがなく、すべての講義がそれぞれ将来的に意味のあるものになる。高校とは違い、空きコマがあるので上手く利用して勉強しなければならない。そうすることで、将来社会に出ていける大人になるためにコツコツ頑張ることができる。

このように、私は弘前大学生になり本当の意味で大学生活を充実しているものにしたい。4年間という時間の長さは長いようで確実に短い。だから、1日1日を出来るだけ悔いを残さず人と人との繋がりを大切にしながら自分を高めていきたい。

思いきった4年間に

医学部保健学科作業療法学専攻1年 石田 沙織



弘前大学に入学してから、毎日が新しい発見だらけの中で早くも1カ月が過ぎていきました。親元を離れて周囲の環境が今までと大きく変わり、まだまだ分からないことだらけです。分かったことといえば、今までの自分が未熟でどれだけ人に支えられればなしであったかということです。大学生になり、自由に好きなことができる機会が増えました。しかし裏を返せばそれは、自分の意思をしっかり持ち常に場をわきまえた行動をしていくということです。今まで以上に自己責任が問われることを痛感しました。

不安なことだらけですが、ここで消極的になってはせっかくの大学生活を有意義に過ごすことができません。私は、思いきっているなことに挑戦していきたいと思います。医療従事者を目指す私にとって、たくさんの経験をするには、いろいろな患者さんと関わっていく上でも大切なことだと思います。その中で、自分の充実した生活がたくさんの人に支えられていることを忘れず、またこれから自分がほかの人を支えていける、そんな大学生活にしていきたいです。

我が道をゆけ

医学部保健学科看護学専攻2年 **土居健太郎**



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生活は小中高とは全く違ったものと思いますが、もう慣れましたか？一人暮らしを始めた方もいれば、僕のように寮生活をしている方もいると思います。これからは親御さんを頼ることもできませんので、料理や家事はすべて自分でやらなければなりません。代わりに先輩方が皆さんの力になってくれると思います。料理をするのが面倒な時など、何か困ったことがある時は、先輩をつかまえて相談してみてください。賢く生き残りましょう。

また、大学といえは何といってもサークルです。皆さんはもう入るサークル等決まっていますか？決まってない方は積極的に見学に行ってみると良いと思います。僕は先日B&Sというバドミントンサークルを作りました。興味ある方は是非ポスターなどを見てご連絡ください。

さて、僕は看護学専攻ですが、この専攻は他の専攻よりも科目数が多いです。つまり、試験が多いということです。専門科目は単位を落とすと後々大変なことになります!!僕は何とか進級できましたが、科目によっては一つ落としただけで留年決定なんてこともあります。そうならないよう、学生生活を楽しみながら頑張ってください。

『自分』を見つめて

医学部保健学科放射線技術科学専攻3年 **中村 歩美**



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。弘前公園のさくら祭りには足を運びましたか？私は先日友人と行き、満開のさくらの下で「弘前に来てもう二年も経つのかあ…」と感慨深くなりました。この二年間で、私は沢山のことを学び、経験し、幾度となく「自分」を見つめ直してきました。大学生となると様々な価値観を持った人がいます。驚くことや、自分が小さく見えてしまうことも多々あります。しかし皆共通して言えるのは、学びに対するモチベーションが高いこと、自分の考え・信念を貫いて生活しているということでありましょうか。私にとって周りの友人からの影響は計り知れないものであり、まだまだ未熟な自分を成長させるためには必要不可欠なものでした。私は現在、医学部ソフトテニス部に所属し、最高の仲間たちと日々練習に励んでいます。また、部活がない日にはアルバイトにも精を出し、多忙な毎日を送っています。

今しかできないことを見つけ、貪欲になって取り組んでみてください。この雄大な自然に囲まれた弘前という地で泣き、そして笑い、自分を好きになれる人間になってください。共に学生生活を謳歌しましょう。

新入生のみなさんへ

医学部保健学科作業療法学専攻3年 **武藤 祐子**



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。一人暮らしがさみしかったり、家事の大変さを思い知ったり、新しい人間関係の構築に疲労困憊したり、新しい環境に慣れるため大なり小なり大変な思いをしているかと思います。私もそうでした。もう弘前なんて出て行ってやろうと思っていました。しかし、弘大生活3年目案外楽しんでます。

私が所属する作業療法学専攻は1学年に20人しかおらず、全員仲が良いです。旅行に行ったり、キャンプに行ったり、誕生日会をしたり、クリスマス会をしたり、弘前公園で鬼ごっこをしたり、みんなでいろいろと遊んでいます。また、専攻のイベントとしてキャンプがあったり、スポーツ大会があったりするので先輩とも仲良くなることができます。先輩と話す機会を多く持てるので、授業への臨み方などへのアドバイスももらえます。大学では遊びも大変楽しいですが、勉強も自身が興味をもったものについて学ぶので、高校までよりずっとおもしろいと思います。

新入生のみなさんもいろんな人とたくさん遊びつつ、先輩からの情報をうまく活用して勉強もしてみてください。では、大学生活4年間でそれぞれに充実したものになりますように。

YES! WE! CAN!

理工学部物質創成化学科1年 九翟 恭平



不安を胸に抱く一方、新たな場所で新たな人々と、新たな生活することへの喜びと期待を胸に入学してきました。正直なところ、そもそも大学で何をするのかよくわからず、大学生ともなると、勉強ばかりするような人たちの集団だろうと想っていました。

しかし、入学してみると、部活・サークルの勧誘や学生による学生のための様々な催しなど桜の有名な弘前で桃色の生活を送れるかもしれないと思い、講義も先生が一方的にむつむつと話すものだと思っていましたが、中には面白い先生などもいて頑張ろう!と思い、自分にも春が来るかもしれない、と心がやる気・元気・眠気で満たされ、大学って楽しいかもしれないと思いました。

まだまだ、大学生活は始まったばかりで、これからたくさんのお会いや体験がまっているので、大学生活が終わった時に、弘前大学に入って良かったと思えるように勉強はもちろん、人とのつながり(同じ学科・学部・学年、先輩、先生など関わる人全ての人)や勉強以外の大学の活動を大切に、充実した生活を送れるようにしていきたいです。

弘前大学へ

理工学部知能機械工学科1年 新宅 正和



弘前大学へ入学して、講義やサークルなどの高校とは大きく変わった環境に戸惑いながらも過ごすうちにもう一か月が過ぎました。思い返せば入学前は新しいことに期待と不安で胸を膨らませていました。今では忙しい中でも楽しさと喜びで胸がいっぱいです。

私の所属している知能機械工学科で、私はクラス委員というものをしています。最初はうまく役目を果たせるのが不安でしたけど、みんな優しく接してくれて、友達もたくさんできたので毎日が楽しくなりました。

私は勉強が苦手なのですが、講義は自分で選択して受けるということが新鮮で、興味のある講義を受けることが楽しく、モチベーションが持続するので、新しくできた同じ学科の友達と単位をとれるように頑張りたいです。

これからの4年間しっかり学び、時には遊びながら過ごしていきたいです。

未来へ向かって

理工学部物理科学科4年 岩滝 将嵩

大学生活は本当にあっという間でした。僕が大学に入ってもう三年が経ち、大学生活も残すところあと一年となりました。僕は大学に入ったときから大学とは何をするためのところなのかよくわからず、アルバイトをして、友人と遊ぶことだけに執心していました。

しかし月日が経つというのは本当に早いもので、自分でも気づかないうちに四年生になっていました。今現在研究室に配属され、卒論のために授業の復習をしていることを思うと、もっと学業を頑張っていればよかったなと思うことはあります。しかし、三年生までの僕の行動が全て間違っていたとは思っていません。なぜなら、アルバイトをすることにより社会勉強を学生のうちにすることができたからです。

この経験は、きっとこの後の僕の人生において生かされてくるものだと思っています。また、大学になってからできた友人は一生付き合っていくことができる友人だと思っています。

新入生の皆さんも最初のうちは何をすればいいのかわからないことがあるのかもしれませんが、しながら、大学生活は決して無駄なものではなく、きっと皆さんの財産として一生役に立つと思います。だから、たくさん経験して頑張ってください。

新入生のみなさんへ

理工学部地球環境学科4年 佐々木 瞳



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。皆さんが編入学された4月から早1ヶ月以上が経ちましたが、弘前大学での生活には慣れましたでしょうか。

さて、大学生の4年間というものには実にあっという間で、とても貴重な時間です。まず自分の行動できる幅が広がり、様々なことに挑戦する機会を得ることができるのです。それは例えばサークルであったり、アルバイトであったり、演習であったりするでしょう。そこで得ることのできる経験や仲間はこれからの人生において大きな糧となります。

一方で私は、初めての挑戦で経験を積もうとするたびに、時間に追われることが実に多くありました。スキルアップのための練習を行いながらアルバイトをして、そして自分の興味ある分野を学べる大学での勉強も疎かにしないように時間を割り振らないといけません。ですので新入生のみなさんも、貴重な時間を無駄にすることのないよう、計画性のある大学生活を送れるように頑張ってください。

私はこれまでの大学生活で、かけがえのないものを多く手にすることができたと思っています。そしてこの弘前大学で、みなさんもまた貴重な時間と経験を得ることを心より願っております。

新入生の皆さんへ

理工学研究科理工学専攻1年 長谷川雅紀



新入生の皆さんこんにちは。

無事ご入学おめでとうございます。入学からしばらく経ち、戸惑いながらも充実した日々を送っていると思います。私も今年から大学院に進学し、講義や研究で忙しい毎日ですが楽しんでます。4年間大学生活を過ごしてきた私が思うに、もちろん勉強は大切ですがそれだけでなくいろいろなことを経験してほしいです。特に部活やサークル等は友人を作るには最適な選択だと思います。他にもアルバイトで働いてお金を貰う大変さを学んだり、働くことに対する意識を養うこともいいかもしれません。そういったことを経験していく中で仲間とのチームワークや思い出を育んでいければいいと思います。私はサイクリング部に所属していましたが、北海道への2週間掛けて行った合宿での出来事は今でも忘れられない思い出として残っています。他にも色々な本を読むこともお勧めです。社会に出てからもそうですが、大学のゼミでも先生や他のゼミ生との意思疎通が大切です。文章を読んで読解力をつけることが1つのいい方法だと思います。最後に、色々書きましたが皆さんおそらく1度しかないであろう大学生活を後悔が無いよう楽しんでください。

新入生に向けてのメッセージ

理工学研究科理工学専攻1年 一戸 康平



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。もう大学での生活には慣れたでしょうか？今回は至らぬ身ではありますが、皆さんに大学生活を送る上でのアドバイスをさせて頂きたいと思います。

私は、自分のやりたい事、または興味のある事を見つける事が一番大事だと考えます。

「終わりよければすべてよし」という、ことわざもありますが、スタートはとても肝心です。そのために、大学1年生の内から色々な事にチャレンジしてみてください。勉強、サークル、ボランティア活動など何でもいいです。幸い、大学にはその為の設備が備わっています。そして、自分のやりたい事を見つけられたら、その目標に向かって、精一杯アプローチしてみてください。大学生は社会人よりも、自分に費やせる時間がとても多いはず。後悔の無いように、自分に磨きをかけ、目標に近づけるように頑張ってみてください。

また、大学では自分でなにをしたいのか考え、行動しなければなりません。これは社会人になってからも同様で、社会人は自分の行動を自分で決め、その行動に責任を持たなければなりません。これは、大学の4年間で意識して培っていく事をお勧めします。

色々書かせて頂きましたが、あまり気負わず、楽しい大学生活を送ってください。

新しい土地で

農学生命科学部生物資源学科 1年 葦名 熙公

地元が離島ということで新しい出会いが少なく、刺激のなかった18年間の生活から離れて1か月、私にとっては毎日が新鮮です。弘前大学に入学し、自分と似た考えや違う考えを持った人など色々な人に出会うことができました。その中でも、4年間互いに励まし高めあえる友達もできました。

学問の面では、高校のときとは違い大学では自分から学んでいくという姿勢が必要だと感じました。さらに、最初から答えのわかっているものを覚えるだけでなく、自分で答えを出せることに魅力を感じます。

私の地元は植物がたくさんあり植物に興味があったためこの学部・学科を選びました。私の所属する学科の先生はユニークな方が多く、これからの授業などが楽しみです。

私は研究者になることを目指しています。はっきりと何を研究したいかはまだ決まっていません。その何かを見つけるため学問にはげみ、色々なことに興味を持っていきたいです。しかし、学問をすることだけが大学生だとは思いません。これからの4年間を有意義に過ごし、人間として一人前になっていきたいです。



弘前大学に入学してから

農学生命科学部園芸農学科 1年 尾形 和

入学してから一か月以上がたちました。入学当初は好奇心と不安が入り混じった気持ちで日々を過ごし、落ち着きませんでした。しかし、友達ができ、サークル・部活の新歓で他の学部の人や先輩と話をすることで不安は“楽しい”に変わりました。私がこの一か月で印象に残っているのは弘前城の桜です。去年は震災で地元が大きな被害にあい、花見どころではなかったので今年、全国的にも有名な弘前城の桜を見ることができて心から綺麗だと感じました。実家の祖父母にも私が弘前大学に通っているうちに見せてあげたいと思います。

弘大生は個々がそれぞれの夢を持ち、前に進んでいるとこの一か月を通して感じました。もちろん、私も将来の夢とその具体的な目標があります。でも、それを目指すには同じように夢がある人と共に協力したり、お互いに助言することが必要だと思います。それがお互いに大きな存在になるからです。弘前大学はこの考えを満たしていると思います。私は弘前大学に入学することが出来てよかったです。共に目指す友達がいる、それを支えてくれる人たちがいて…。今後の4年間着実に夢に向かって進んでいきたいです。



これからの大学生活

農学生命科学部地域環境工学科 1年 阿部 達也

私はこの春、弘前大学に入学し、大学の新たな一員になりました。私の大学生活での抱負の1つは、勉強です。弘前大学には勉強するために入学したのですから、しっかり勉学に励みたいと思います。大学での勉強は高校時代に比べ、異なることが多いです。そのため、早く大学の環境に慣れ、たくさんのお話を吸収したいです。

2つ目は生活についてです。4月から弘前で一人暮らしが始まりました。初めての一人暮らしは多くの不安があります。お金の問題や今まで両親に甘えていたものをすべて自分でなんとかしなければいけないのでしっかりやっていきたいです。そして、大学生という自覚と責任を持った行動をし、生活していきたいです。

3つ目は友人関係です。大学でできた友人は一生の友になると聞いたことがあるので、学部や学科関係なく多くの友人をつくりたいと思っています。また、私はまだ一年生ということでわからないことだらけなので、頼れる先輩方とも仲良くなりしたいと思います。さらにサークルにも積極的に参加し、友人の輪をどんどん広げていきたいです。

最後に、大学という貴重な場で学べることに感謝し、これから弘前大学の一員としてしっかり頑張っていきたいです。



手にした経験と掴んだチャンス

農学生命科学部生物学科3年 菊池 康哉



「うわ、まだ動いてる！」僕の掌で解剖し取り出したアカシユモクザメの心臓が脈を打っている。水から引き揚げて既に数時間が経っているのに！これは水族館実習での強烈な一場面。今年3月末、東京の水族館に飼育実習に行った時の体験です。僕がこの滅多に無いチャンスを手にしたのは、とても幸運なことでした。もし再度機会があったら、ぜひ思い切って志願してください。自分が積んだ経験は何事にも負けません。詳しくは農学生命科学部ホームページ教員紹介に5月に入っても未だ名前が無いプラナリアの新任教官の研究室まで！研究室といえば私事ですが、僕がこの研究室への配属を希望したのは、新任の教官が決まる前でした。いわば、ブラックボックスに手を突っ込んだ格好です。そんな賭けに出たのは、新任教官のもとで研究室を作り上げていきたいと自ら強く思ったから。あるいは、退官された先生のアドバイスと言う名の魔法にかかったからかも……。その結果、見事、「見た目はワイルド、中身は熱い」教官を引き当てたのでした。研究室配属となってまだ間もないですが、僕自身の意欲と努力さえあれば、多くのチャンスを様々な経験に変えてゆけそうです。

新入生の皆さんへ

農学生命科学部分子生命科学科4年 相馬 智絵



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。弘前大学での生活にもそろそろ慣れてきたのではないのでしょうか？

大学では高校までよりも自由に使える時間が増えると思います。そのぶん時間の使い方が重要になります。ぜひ時間を有効活用してください！空きコマをぼんやりとなんとなく過ごすなんてもったいないですよ。勉強はもちろんのこと、サークル活動やボランティア、アルバイトなど興味を持ったものには積極的に取り組んでほしいです。長期休業を利用して海外旅行してみるのもいいかもしれません。4年生になると就職活動や卒業論文などで忙しくなるので、やりたいことをやるなら今がいいと思います。私は学生のうちに自動車免許を取ろうと思っていたのですが、結局取らずに4年生になってしまい、1年生の時に取っておけばよかったと後悔しています。4年間なんてあっという間に過ぎてしまいます。皆さんには私みたいな後悔をしないでほしいです。「充実した楽しい大学生活だった！」といて卒業できるように、一日一日を大切に過ごしてください。

悔いのない大学生活を

農学生命科学研究科農学生命科学専攻1年 盛 雄治



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。そろそろ大学での新たな生活にも慣れてきた頃でしょうか？

私は現在大学院修士1年ですが、自分自身の大学での4年間を振り返ると、あっという間に過ぎてしまったという印象があります。大学では自由な時間が多くあり、楽しいだけでなく充実した大学生活が送れるかどうかはその時間をどれだけ有効に活用できるかにかかってくると思います。私はというと大学生活の前半はその自由な時間のほとんどを遊びやアルバイトに費やし、勉強もせず、単位も落としてばかりの典型的なダメな大学生だったと思います。それから3年生になり、研究室に配属されて研究を実際にしようとした時に、自分が研究していく内容を全く理解できない自身の知識不足を痛感させられ、もう一度基礎から勉強し直さなくてはなりません。遊んでばかりの生活もちろん楽しかったのですが、今思うともっと勉強しておけば良かったと少し後悔しています。

新入生の皆さんはこれからの大学生活で部活動、サークル、アルバイト、趣味、飲み会など様々なやりたいこと・楽しみなことがたくさんあるかと思いますが、後悔の無い充実した大学生活を送ってください。



学生命科学部 育種・遺伝学研究室 (原田ゼミ・石川ゼミ)



写真1 平成24年度育種・遺伝学研究室の観桜会コンパ(平成24年5月3日、弘前公園にて)。千田峰生先生ゼミと合同開催。

私たちの育種・遺伝学研究室は原田と石川が共同で教育・研究に取り組んでいます。平成24年度の研究室メンバー構成は学部生5名、修士課程4名、博士課程1名、研究生1名、博士研究員(弘前大学特別研究員)1名、研究技術補佐員2名、研究サポートスタッフ1名、そして教員2名の総勢17名です(写真1)。原田は植物バイオテクノロジー、石川先生は植物育種学・資源学を専門分野としているため、それぞれのサブグループに分かれています。週2回の演習を含め、ほとんど

の研究室行事は一緒に行っております。

当研究室には古くから学生たちが自ら設けたルールとして「朝8時半からの掃除当番」があります。また、「全員が朝9時までに研究室に入ることを基本とする」とされており、学生といえども規則正しい生活を送ることに努めています。私たちの研究分野は実験することが主体となりますが、その実験のためには先ずその材料となる植物体を獲得しなければなりません。この適格で健全な材料を準備することが研究の基盤となります。植物

とはいえ、培養室、温室そして圃場と中断のない管理作業が続きますので、その育成にはそれなりの意識を持つことが必要となります。当研究室でのみ存在する貴重な材料も数多く、それらを用いた実験結果を世界に向けて発信するためには材料の育成が極めて重要な作業となります。植物は私たちが休んでいる日曜や祭日も中断なく育ってくれますが、毎日きちんと面倒をみるのがとても大事です。特に炎天下の温室では温度や給水の管理を早朝から始める必要があり、私たちはこの作業に連日取り組んでいます。

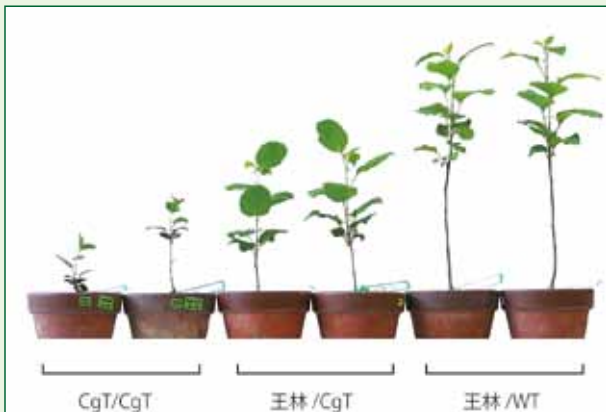


写真2 矮化性リンゴ台木マルバカイドウの作出。
導入矮化性遺伝子の転写物が篩管輸送することで穂木「王林」も矮化する。

原田はリンゴの分子育種学的研究を中心に取り組んできました。農学生命科学部には附属農場にリンゴが栽培されていますし、青森県産業技術センターのリンゴ研究所には私たちの研究室のOB、OGも勤務していますので、リンゴの葉や果実を実験材料とすることは特段の恩恵があります。そこで、果実日持ち性とエチレンの関係の分子レベルにおける研究を20年近く行い、多くの論文を発表してきました。また、平成19年度に農水省の競争的資金である「イノベーション創出基礎的研究推進事業」の応募課題が採択されて、昨年度までの5年間この大型研究費を獲得することができました。このプロジェクトに対しては、優秀なポスドク（そのうちの一人が葛西厚史博士で現弘前大学特別研究員）や技能補佐員たちと取り組んできま

したが、最終的な評価は「当初の計画を達成」とされました。また、今年度からは文部科学省科学技術振興機構（JST）の「研究成果最適展開支援プログラム」に採択されて研究をさらに進めています。その研究内容を簡単に説明します。

リンゴ栽培では接ぎ木技術が使用されていますが、接ぎ木はリンゴのみならずほとんどの果樹や花木に加え、トマト、ナス、キュウリ、スイカなどの野菜においても取り入れられています。その理由は根としての台木、茎や葉・花側の穂木に、それぞれ有能な品種を使用してそれらを接ぎ木する「いとこどり」の栽培法であるからです。一方、植物体内には養分物質輸送を担うインフラとして篩管が存在しますが、この中には特定の遺伝情報RNA分子も輸送されており、それが器官間の調和的生長を実行するための遺伝情報として機能することが判ってきました。そこで、任意のRNA分子を輸送できるシステムを植物に組み入れ、これに既存の優良品種を接ぎ木することで輸送されてきたRNAにより形質を変える新たな品種改良が創出できます。リンゴ台木品種マルバカイドウに矮化性をもたらし遺伝子を導入し、その転写物（RNA）を穂木に輸送させることで穂木品種「王林」を矮化することができました（写真2）。さらに、これまで得られた成果から、遺伝子組換え体を作成することなく、篩管輸送RNAを穂木から台木へ輸送させることで品種を改良できる基本のシステム（図1）が完成しましたので、今後の展開が楽しみです。（以上原田記）

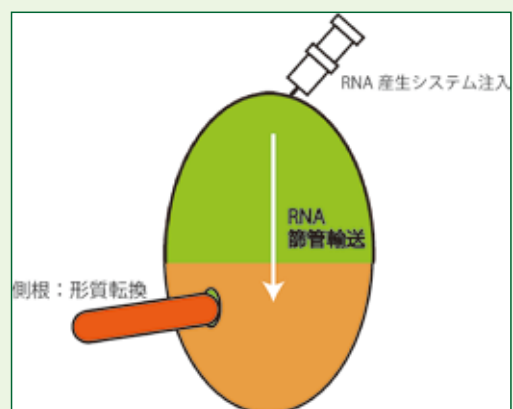


図1 篩管長距離輸送RNAによる形質転換組織の獲得システム。

Ⅲ 研究室紹介

石川も多くの研究室OB、OGと協力して青森県、東北ひいては日本全体の農業問題の解決のための研究を進めています。その1つは近年顕著になってきた気象変動による農作物被害対策です。これまでの寒冷地農業の課題に加えて、昨今では地球温暖化の対応も必要となってきました。研究室で取り組んでいる課題は「イネの胴割れ」被害です(写真3)。2011年に採択された概算要求“冷温帯地域の遺跡資源の保存活用促進プロジェクト”の一部として進めています。登熟期の高温にて胴割れを生じる良食味品種‘まっしぐら’と耐性を示す青森県の香り米‘恋ほのか’の耐性程度を異なる栽培地で検証し、遺伝的な改良を進めています。これまで青森県産業技術センターにおいて育成した‘まっしぐら’と‘恋ほのか’の交雑後代を利用した育種と耐性遺伝子の解析中ですが、そのスピードを速めるために両品種の全ゲノム解読も完了しました。研究成果を進展させて、温暖化に耐性を示す良食味品種を改良していきたいと考えています。

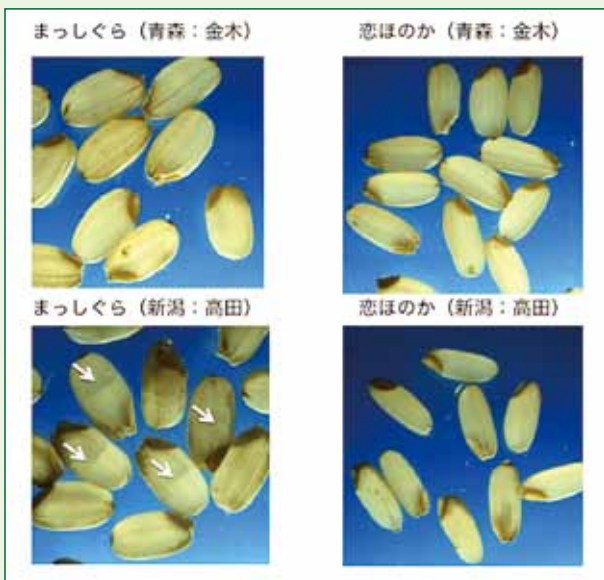


写真3 登熟期の高温にて胴割れを生じる良食味品種‘まっしぐら’と耐性を示す青森県の香り米‘恋ほのか’の耐性程度。

香りイネが耐性を示したことから、東北や日本各地の有用遺伝資源の掘り起こしも行っています。その1つが写真に示した香りイネです(写真4)。香り米は2-APという物質によるポップコーン

のような香りを放出します。その香りが新米のにおいと似ているため、東南アジアでは高値で取引されます。一方、日本にも在来種として栽培されていた香り米が存在していましたが、時代と共に徐々に姿を消してきました。日本にある香り米を40系統収集しており、これらの起源地域ごとに原因遺伝子の解析を進めてきました。その結果、東北独自に遺伝子変異を起こしている香り米系統群の存在がわかってきました。これらは東北地域の独自の育種選抜の例として重要であり、今後の食品加工の機能性付与にも有用な知見であると考えています。

基礎的な研究としては北海道での栽培を可能にせしめた在来種‘赤毛’の突然変異機構を中心に進めています。いままでに多数の変異体が得られており、当研究室において選抜と原因遺伝子の解析について金木附属農場を利用して研究をすすめています。もう1つの基礎研究が野生イネ遺伝資源の解析です。学生に調査に同行してもらうことも多く、実際の現場を観ながら、研究室での解析を行っています。これらの野生イネから今後の栽培イネに必要な遺伝子をとりだすこと、それを可能にする自生集団の保全を行っていくことが課題です。

学部生や大学院生は、以上の農業関連の研究課題を通して論理的思考力や実験データなどのとりまとめ技術、国内・国際学会での発表を通してのプレゼン技術を身につけています。様々な就職先においてその技術が活かされているとのこと、生きた教育を行っていきけるように今後も教育と研究を進めていくつもりです。(以上石川記)



写真4 海外と日本の香りイネ。

留学のススメ 米国、ドイツ留学を経験して



人文学部現代社会課程 福士 裕也



ドイツのアパートにて：パーティー



アメリカのアパートにて：パーティー

私は、大学二年生が終わり米国はメイン州立大学へ、大学三年生を終えドイツのトリア大学へ留学しました。一度目の留学は「とうとう私の夢がかなった」といった感じでした。私は中学校の頃にオーストラリアにホームステイした経験がありましたが、当時は英語があまり話せず、そのやるせない気持ちが米国留学の原動力でした。また映画が好きだったので、映画を字幕なしで見ることにすごく憧れていました。二度目の留学は逆に計画には全くありませんでしたが、ドイツ留学はまた米国とは違う経験をすることができました。

留学は「ことば」だけを学ぶわけではありません。私は二度の留学でアメリカ譲りの積極性、ドイツ譲りのエコ精神などを学びました。私は時間

がある学生時代にこそ、留学して、さまざまな経験をつむべきだと考えています。まさに、学生の特権です。留学には、不安と緊張が伴いますが、それ以上に刺激と興奮があります。留学を通して自分も知らなかった「自分」に出会ってみませんか。

留学に興味がある方はまず学内留学をお勧めします。弘前大学には協定校からの留学生がたくさんいますし、言語の授業やサークルに積極的に参加するのもモチベーションの向上と維持につながると思います。何事も一歩一歩着実にこなせば、夢は絶対叶います！

V 新任教員紹介



人文学部 コミュニケーション講座 講師 川瀬 卓

日本語史を専門としており、現在は主に副詞の歴史的研究を行っています。福岡から弘前に来てまだ2か月ほどですが、早速とてもいい街だと実感しているところです。先日、弘前城のさくら祭りに行き、見事な桜に感動しました。また、弘前はおいしいお店が多く、これからいろいろと探するのが楽しみです。

研究、教育ともに精力的に取り組みたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

人文学部 コミュニケーション講座 講師 堀 智弘

この4月よりアメリカ文学担当として着任しました。3年半ほどの米国南部ルイジアナ州での留学生活を除いては、学生時代からこれまで関東で研究生活を送ってきました。初めての東北地方での生活ですが、桜祭りで賑やかな弘前の街をみて、せわしない東京よりも落ち着いて研究ができる地方都市の魅力を実感しつつあります。東北発のアメリカ文学研究を盛り上げていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



人文学部 国際社会講座 講師 中村 武司

この4月に人文学部国際社会講座に着任いたしました。専門分野は西洋史、とくに18世紀・19世紀のイギリス史・イギリス帝国史にかんして、当時の政治や文化のあり方に注目しながら研究を進めています。

これまで神戸・大阪で暮らしてきましたが、「住めば都」というのでしょうか、時間のあるときには歴史ある弘前の街並みの探索を楽しんでおります。今後ともどうかよろしくお願いいたします。

人文学部 ビジスマネジメント講座 講師 大倉 邦夫

この度4月より人文学部ビジスマネジメント講座に着任致しました大倉邦夫です。専門は経営組織論と企業社会論です。現在は、企業が地球環境問題などの社会的課題の解決に向けて、自社の経営資源を用いながらビジネスとして取り組む「ソーシャル・ビジネス」を対象に研究をしています。

2006年に本学の文学部を卒業し、再び母校に戻ってまいりました。皆さんとともに学んでいきたいと思っています。宜しくお願い致します。



人文学部 公共政策講座 講師 成田 史子

はじめまして。この4月より人文学部公共政策講座に着任いたしました成田史子と申します。労働法と社会保障法を担当しております。弘前は初めての土地で、着任するにあたって不安もありましたが、弘前城の桜や岩木山の美しさに早くも魅了されております。これから、研究・教育活動はもちろんのこと、地域社会にも貢献できるよう尽力いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

教育学部 数学教育講座 講師 岡部 考宏

平成24年度4月1日付で教育学部数学教育講座に着任した岡部考宏です。出身は群馬県です。水や空気などの流体の運動を記述する偏微分方程式を研究しています。数学に興味がある方、ふとした「なんでだろう」を大切にされる方、質問大歓迎ですので、研究室までお越しください。どうぞよろしくお願いいたします。



教育学部 理科教育講座 講師 島田 透

教育学部理科教育講座（化学）に着任した島田透です。専門は物理化学で、表面科学、レーザー分光に興味を持っております。弘前大学へ着任する前は、ドイツのフリッツ・ハーバー研究所とベルリン自由大学で、研究・教育を行っていました。留学経験を生かし、視野の広い研究・教育活動を行っていきたくと思っています。ドイツのことやドイツ留学に関する質問がありましたら、お気軽にお尋ねください。どうぞよろしくお願いいたします。



教育学部 保健体育講座 准教授 上野 秀人

平成24年4月1日付けで、教育学部保健体育講座に准教授として着任した上野秀人です。出身は福岡県ですが、学部生の4年間を弘前で過ごしました。専門は体育科教育学で、地域人材の活用、教師行動、及びチェコの体育事情を探りながら、新たな保健体育科学習を提案していきたいと考えています。第2のふるさと弘前で研究・教育に取り組みますこと光栄に思っています。今後、皆様のご指導、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

教育学部 家政教育講座 講師 飯野 祐樹



私の研究関心の基幹となる部分は、保育とそれを保障する質との関連を探究することにあります。この課題に対して、1) 国内外で用いられている保育記録と保育者の省察(振り返り)に関する検討、2) 海外の保育カリキュラムと質保障の検証、3) 日本における特色ある子育て支援の調査、という3点からアプローチしています。中でも、ニュージーランドの保育、及び、子育て支援については現在の主要テーマとして研究を進めています。



教育学部 学校教育講座 講師 松本 大

教育学部学校教育講座に着任いたしました松本大と申します。専門は社会教育・成人教育で、おとなの学びが研究対象となります。これまでは主に公民館や地域づくりの実践に注目しながら、おとなが学ぶことの個人的・社会的な意味とは何か、おとなの学びをいかに支援するのかを研究してきました。これからは青森の実践に学ばせて頂きながら教育・研究に取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

教育学部 学校教育講座 講師 森本 洋介



はじめまして。この4月から教育学部学校教育講座(教育科学)に着任した森本です。今まで福岡と京都に住んだことしかなく、雪国に住むのが初めてで、今年の冬を無事に越せるかどうか今から不安です。学校教育のなかでメディアに「ついて」どのように子どもに教え、ともに学ぶかということを研究しています。よろしくお願いいたします。



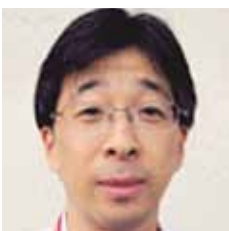
医学研究科 生体構造医科学講座 教授 下田 浩

この度、生体構造医科学講座ならびに神経解剖・細胞組織学講座を担当させていただくことになりました。九州でのんびりと生まれ育った私が、この伝統ある弘前大学でその大任を果たせるのか未だ不安な毎日です。全ての医学の基礎となる肉眼および顕微解剖学の学習に発揮される学生の情熱と力に負けないように、またそれらに支えられながら愚直に進みたいと存じます。皆様のご指導とご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。

保健学研究科 医療生命科学領域 教授 真里谷 靖



四月から保健学研究科での仕事を始めました。専門は放射線医学、なかでも放射線腫瘍学を得意とします。研究テーマとしては癌放射線治療に関連する機能画像解析やラジオアイソトープ内用療法などを中心に据え、被曝医療にも力を入れていく予定です。大学では多くの学生達に加えてアカデミックな若いスタッフが多く、毎日大いに刺激を受けています。スポーツ好きですがいまは運動不足で、継続可能なスポーツを探索中です。



医学部附属病院 消化器血液内科学講座 准教授 三上 達也

2012年4月1日から附属病院の光学医療診療部というところで働いています。光学医療診療部とは、内視鏡を用いて病気の診断をして、早期のがんなどの治療を行う部門です。青森県八戸市出身ですが、弘前大学卒業後は附属病院と県内の自治体病院に勤務していました。今回は3年ぶりの大学病院です。学生のころを含めるともう弘前市に住んでいるほうが長くなりました。どうぞよろしくお願いいたします。

V 新任教員紹介



理工学研究科 物質創成化学科 准教授 萩原 正規

平成24年4月1日付けで理工学研究科に着任いたしました萩原正規と申します。専門は生物有機化学という分野で、化学的視点で生物が有する高い機能を解明していこうと研究を行っています。弘前大学におきましても、これまで大学での基礎研究、および製薬企業での創薬研究を通じて培った知識、技能を通じて、皆さんと楽しく学問の道を進めていくように努力していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

理工学研究科 電子情報工学科 助教 千坂 光陽

はじめまして。4月1日付で理工学研究科に助教として着任した、千坂光陽（ちさかみつはる一初対面で正しく読んだ方は、過去に一名だけです）と申します。グリーンITに貢献する電池・燃料電池の研究ならびに教育を通して、微力ながら本学のプレゼンス向上に貢献したいと思います。いつでもオープンな研究室にしたいと考えていますので、何かございましたらお気軽にお越しください。どうぞよろしくお願いいたします。



理工学研究科 知能機械工学科 助教 本井 幸介

4月1日に着任致しました。出身は石川県金沢市、地元大学で機械工学を学び、また生体医工学という医学・工学を融合した分野において、特にユーザーにとって負担のない新しいヘルスケア・医療支援システムの研究開発や、それらの臨床現場での応用研究等を行ってきました。人生はじめての東北、そして弘前での生活ですが、本地域の教育研究、そして医療・健康に貢献できるよう頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

農学生命科学部 生物学科 准教授 小林 一也

4月に農学生命科学部に着任致しました。同学部を退官された石田幸子先生に修士課程まで師事しまして、手代木渉元学長から続くプラナリア研究に魅了されました。幸運にもそれから今まで、プラナリアを材料に研究を続けております。弘前は白神山地や八甲田など、プラナリアの野外調査にも最適な場所です。弘前大学から発信されてきたプラナリア研究を発展させ、次世代に続くよう精進して参りますので、宜しく願い致します。



農学生命科学部 生物学科 准教授 笹部美知子

2012年4月1日に農学生命科学部生物学科に着任致しました。植物を研究材料とし、植物特有の形作りや、その基礎となる細胞分裂の分子機構の解明に取り組んでいます。植物は動物と違って動くことができませんが、たくみな仕組みを用いて環境に適応した美しい姿を形作ります。自然豊かな弘前で、この美しい仕組みを少しでも解き明かせるよう学生のみなさんとがんばっていききたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

農学生命科学部 分子生命科学科 助教 栗田 大輔

4月1日に農学生命科学部分子生命科学科に着任しました栗田です。研究テーマは、タンパク合成の分子メカニズムの解明です。静岡の出身です。研究に集中していると、時間の感覚が麻痺してきますが、弘前に来て今年で13年目を迎えます。夢中になる、これがいつまで続けられるかが勝負だと思っています。よろしくお願いいたします。



農学生命科学部 生物資源学科 助教 金児 雄

生物資源学科の助教に着任した金児です。蝶や甲虫などの昆虫は成長過程で幼虫（いもむし）から蛹、成虫へと姿を大きく変化させます。成虫になるときに不要になった幼虫の組織は、細胞を自殺させて取り除きます。この細胞の自殺は、我々ひとの体を作る時にも重要な働きをしています。私は昆虫の研究を通して、生物に共通した体作りの機構の解明、また害虫防除への応用を目指しています。興味のある方はぜひ一緒に研究しましょう。



地域社会研究科 地域文化研究 准教授 平井 太郎

この4月に大学院地域社会研究科に参りました。時折吹雪になっていたあの頃。そして今は研究室から見える八甲田の青葉に癒される——このような季節の移ろいがここでの暮らしを実感させるように、私の課題は、暮す場所が意識される過程を追うことです。たとえば住まい。当たり前で暮している家も家族の仲がぎくしゃくすると、初めてこれでいいのかなと意識されてきます。その意識をバネに、人と人とのつながりの新たな可能性をみなさんと一緒に見つけるのが私の仕事です。

国際交流センター 教授 中村 裕昭

国際交流センターに着任しました中村裕昭です。21世紀教育の英語コミュニケーション科目を担当しながら、イングリッシュ・ラウンジを運営しております。イングリッシュ・ラウンジは世界中から集まったネイティブ教員4人と日本人教員2人で、授業時間などにこだわらず、学生の多様なニーズ、レベルにあわせて英語を指導していきます。特に英語に苦手意識のある学生諸君がたくさんラウンジを訪れ、在学中に英語におけるコミュニケーションの力をつけて、国際社会に積極的に飛び出すまでのお手伝いをしたいと願っております。会話からプレゼンテーション、論文作成、留学まで幅広く学生さんの相談を受け付けていますので、弘大の小さな外国をぜひのぞいてみてください。



国際交流センター 准教授 パーマン・シャーリー



今年4月に赴任しました。イングリッシュラウンジの担当が主な役割です。この仕事を通じて学生の英語力の育成に役立ちたいと思います。私は特に英語の聴解力、単語力、発音などに力を入れています。よく「英語が苦手」と聞きますが、英語に対して特別な能力は必要だと思いません。言葉が上手になるためには積極的な態度で、よく練習することが一番だと思います。私はDeliberate PracticeとTolerance of Ambiguityの研究をしています。

国際交流センター 准教授 セラグ アダム

はじめまして。4月から国際交流センター准教授として着任しました、セラグアダムと申します。出身はオーストラリアのブリスベンです。シドニー工科大学でTESOL修士号、鹿児島大学で博士号を取得し、その後の日本の大学での教育経験を基に、学生の皆さんが自主的に英語を習得できるよう、応用言語学、言語心理学、EAP、FL教育、CALLおよびEラーニングについて研究し、実践していきます。よろしくお願いいたします。



国際交流センター 講師 村山 陽平



2012年3月に赴任しました。主に1・2年生向けの英語科目の授業や、イングリッシュラウンジでの学習支援を担当しています。また、調査・研究では、初等・中等・高等教育での英語教育について、現場での調査・実践を踏まえた検証を行なっています。これらから得られた結果も活かし、弘前大学での英語教育の充実や運営に貢献できれば、と思います。どうぞよろしくお願い致します。

国際交流センター 講師 吉川エリザベス

この2月に、国際交流センターに着任しました。専門はTESOLです。出身はカナダのバンクーバーですが、これまでタイのチェンマイ、沖縄、兵庫の大学で教えてきました。弘前大学でも楽しく過ごしています。

英語力を向上させるためには、知りたいこと、伝えたいことがあること、そして「自信がつけ環境」で学べることが大切だと考えています。異文化における英語力習得の意義や、最も適した習得方法とは何かを研究と実践のテーマにしています。よろしくお願いいたします。



VI けいじぼん

文京町キャンパスでFMの公開生放送が行われました

4月7日（土）、本学文京町キャンパスでNHK-FMの公開生放送（青森県内向け）が行われました。生放送は午後2時から午後4時までの2時間行われ、NHK青森放送局のアナウンサーと一緒に弘大ラジオサークルの相馬春花さんと伊藤友佳子さんが進行を務めました。本学学生がゲストとして何名か出演し、自分が所属するサークル活動の紹介、実演パフォーマンス等で会場を盛り上げたほか、弘前大学及び弘前市の魅力を発信しました。会場には学生だけでなく一般の方も多く見学に訪れていました。出演した学生にとっても、普段体験できないことを体験することができ、非常に有意義な時間となりました。



イングリッシュラウンジを開設しました

4月9日（月）、本学総合教育棟2階にイングリッシュラウンジを開設しました。開所式では、大西国際交流センター長からイングリッシュラウンジの概要説明を行った後、佐藤学長のあいさつがありました。そして、関係者によるテープカット及び内覧会が行われ、イングリッシュラウンジの設置を祝いました。イングリッシュラウンジは学生の英語力（特に英会話力）の向上を目的としており、常駐のネイティブスピーカーの教員が英会話やビジネス英語の指導等を行っています。



VI 編集後記

先日、金環日蝕が日本で観測された。残念ながら弘前では部分蝕だったが、好天に恵まれ、太陽が欠けている様子を出勤前の自宅で観察できた。実はその約二週間前、スーパームーンという、満月が通常よりも大きい現象があった。実はこの二つの天文現象には密接な関係があり、それは月が地球の周りを楕円軌道を描いて周回していることに由来する。一見異なる現象が、背後に潜む共通の原因により結びつけられ、統一的に理解されることは美しい。

さて、本号は新生を歓迎する特集号である。新生には、学問が個別の知識の集積だというのではなく、相互に関連して全体をなしているということに気づいてほしい。専門を深く学ぶだけでなく、広く学ぶこともまた、将来の社会を担うためには重要だと思う。分野を越えて広く学ぶことができるのも、総合大学の特徴である。弘前大学へようこそ。（R）

弘大生協は学内放置自転車のリサイクル活動に取り組んでいます

今年も弘前大学より委託を受け、学内に放置された自転車の回収、リサイクル、販売を弘前大学生協が実施しました。弘前大学生協では、学生委員会と環境サークル「わどわ」の学生が中心となり、KES推進委員会活動の一環として大学の協力を得ながらリサイクル活動に取り組んでいます。



昨回収をし、リサイクルした自転車は、今年4月7、8日に実施した「フレッシュフェスタ」で販売を行いました。自転車購入するために早くから来場をした新生もいて120台が完売しました。



総合教育等裏の自転車を整理



整理後に、勉強会



全員で、記念撮影

また5月12日（土）、19日（土）には放置自転車の整理・回収を行いました。12日（土）は小雨が降る中、学内に放置されている自転車を各駐輪場の一角にまとめる整理活動を行い、その後リサイクルについての勉強会と朝食を食べながらの交流を行いました。19日（土）にはその整理した自転車を保管場所に移動しました。

2日間、学生、職員合わせて延べ80名で実施しました。19日に保管場所に移動した自転車は、登録番号や、保管場所をデータにし、そのリストを28日（月）に大学会館掲示板に掲示し、30日（水）に生協ホームページに掲載しました。回収した自転車のうち持ち主の申し出があった場合は、持ち主に返却をします。残った自転車は6月23日、24日の2日間で「サイクルショップおさない」が引き上げ、リサイクルをしていきます。

東日本大震災救援募金にご協力いただきありがとうございます

弘前大学生協では各店舗に募金箱を設置し、東日本大震災救援募金を募っています。昨年度末までの合計額は、855,142円となりました。募金へのご協力をいただきありがとうございます。

弘大生協では募金箱による募金のほかに、メニューや商品に義援金を盛り込んで利用があると、募金がされる取り組みも行っています。

5月からは、SHAREAのnamacoグッズなどの売り上げを救援募金として届けていく取り組みを行っています。

3月までの募金額

855,142 円



正門と桜



総合教育棟中庭



昼休みの人文通り

弘前大学 VOL.174

学園だより

2012年6月発行

学園だよりに関するご意見がございましたら、
下記のアドレスまでお寄せ願います。

e-mail: jm3113@cc.hirosaki-u.ac.jp

弘前大学学務部学生課



HIROSAKI
UNIVERSITY

国立大学法人 弘前大学「学園だより」編集委員会

- 委員長 今井 正浩 (教育委員会)
委員 保田 宗良 (人文学部)
出 佳奈子 (教育学部)
松谷 秀哉 (医学研究科)
西村 美八 (保健学研究科)
宮本 量 (理工学研究科)
大町 鉄雄 (農学生命科学部)
澤田 祐子 (学生課)
小山内英子 (学生課)

印刷：青森コロニー印刷